

平成23年7月14日（木曜日）

陸前高田市災害レポート①

福岡市立こども病院・感染症センター 高橋 宗康
(派遣先：岩手県立高田病院)

陸前高田市は、岩手県沿岸にある、宮城県との県境の都市です。震災前は人口2万4千人で、主な産業として漁業を行って生活を行っていました。今回の3月11日の震災後、津波により人口約1割の1500人が死亡、500人がいまだ行方不明となっています。(岩手県内最多の2142人の死者行方不明者)



陸前高田市の
津波被害範囲
黄色：津波の被害地
(インターネットより)

陸前高田の中心市街は、海から低い土地が広がっており、商店街などの商業施設や行政機関が集中していました。地震発生から30分後に津波が来襲し、ビルの高さ4階まで飲み込みました。一般家屋は跡形もなく流され、かろうじて、市で最も高いビルである県立高田病院や総合デパート「MAIYA」が形は残りましたが、内部は完全に破壊されました。

海からの津波は、陸前高田市の低地を飲み込むことのみならず、川を上り、堤防を決壊させ、海岸から遠く離れた河川周囲の集落も被害を及ぼしました。上図で、向かって左側へ陸地深く被害が及んでいます。これは河川を登った津波によるものです。河川に並行して鉄道も走っていましたが、数個の駅も共に津波は飲み込みました。

患者さんの話(70代女性)：津波が押し寄せてくるため、車で全速力で走り抜けた。他の車は、地震により故障・パンクをしており多くの方が飲み込まれた。30秒の違いで助かった。



瓦礫が依然残存。
ハエ、悪臭があり、ボランティアの方が毎日、地道に仕分けをしている。



避難場所に指定されていた陸前高田市体育館
地震により多くの方が避難し、その直後津波に飲み込まれた。生存者1名。



景勝地
高田松原の松はことごとくなぎ倒され、地上の家屋を破壊した。

4ヶ月経過していますが、災害地の被害を目の当たりにし、想像を絶する破壊力と元の街が消失したことに気分が落ち込みます。無念だったでしょう。